

日本人の DNA にあった夢の叶え方

今回は、ひすいこうたろう&白駒妃登美さんの「人生に悩んだら「日本史」に聞こう」より紹介します。

日本史の中で、彼ほどドラマチックな人生を歩んだ人もいないでしょう。お百姓さんから天下統一。豊臣秀吉です。もともと秀吉は「天下統一」など夢にも見ていませんでした。自分の土地さえ持たない貧しい農民の家に生まれた秀吉は、サムライの身分に憧れていました。でも、すぐにサムライになれるわけではありません。そんなときにチャンスが訪れました。織田信長の“小者”として奉公できるようになったのです。しかし、小者とは雑用係です。「チェッ。サムライになりたかったのに雑用かよ」そんな気持ちだったならば、秀吉の人生も、日本の歴史も、まったく違ったものになっていたでしょう。秀吉は嫌々どころか、雑用係に採用してくれた信長に感謝し、何をやるにも、自分ができる工夫を施したのです。ある寒い日の朝、信長の草履を懐に入れて温めておいてから出したという話は、有名なエピソードですね。草履ひとつ出すにも、秀吉は相手のことを考えて、喜んでもらえるようなアイデアを加えているのです。(中略)ちなみに、雑用係から、大名になるまでどれくらい時間がかかっていたと思いますか？3年？5年？いえ。19年もの歳月が流れています。秀吉は、天下統一のために、人生をささげてきたのではないのです。もし、そうだとしたら、途中で息切れしていたはずですよ。(中略)秀吉は、遠い未来に目標を定め、“いま”をその手段としたのではなく、いつまでも“いま、ここ”に全力投球だったのです。秀吉は、雑用係では、雑用係に胸ときめかせ、自分がやれることを精いっぱいやった。足軽になつては、足軽に胸ときめかせ、自分ができることを精いっぱいやった。その結果、まわりから応援されて、次々と扉が開いて、いつのまにか天下人へと運ばれていったのです。おそらく日本人は、ずっとこういう生き方をしてきたのではないのでしょうか。(中略)そもそも日本人にとって、「成功」＝「幸せ」だったのだろうか？日本人の本来の生き方は、アメリカ型の成功哲学とはちょっと違うところにあるんじゃないか。そんな風感じていた時に、人間の進化には、2通りカタチがあるという話を知りました。一つは「目標達成型」。これは夢や目標を持ってそこに邁進していくタイプ。もうひとつは、「天命追求型」。目の前にある課題に対して、ひとつひとつ力を出し切ることで次々の扉が開き、新しいステージに運ばれていくタイプ。自分から目標に向かって行くのか、まわりから選ばれていくのか、という違いです。(中略)無理やり目標を作らなくてもいい。無理やり自分の人生を創りださなくてもいい。ただ、いま目の前の事をひとつひとつ大切にしていけばいい。そう気づき、なんだか、生きることに對して、安心感が生まれました。

Q1:人間の進化の2通りの型は何ですか？

() ()

Q2:あなたの夢の叶え方はどの様ですか？

[]